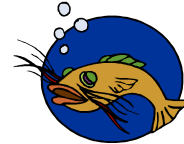


## 川柳のように楽しく前向きに！

先月末、オリックスのマナー川柳の選考が行われました。実は私も3首ほど投稿したのですが残念ながら不採用でした。入選した他人の作品を読んでみると、「なるほど、なるほど」とそのうまさに教えられます。

大賞： 初任給 母より先に 被災地へ  
 優秀賞： 年金も 貰う期間は ロスタイム  
 JAPANなう TPPより AKB  
 地にナマズ 国会ドジョウ 円ウナギ  
 (私の好みで抜粋)



解説の必要はありませんね。それぞれ時流と事象をうまくとらえ、表現も「今使われている言葉」で文字も片仮名、平仮名、英語を効果的に使い分けています。

一方、第一生命が募集している「サラリーマン川柳」は12月2日が締切日で、同時に過去の優秀作品からまた“優秀作品”を選ぶ「サラ川総選挙」なるものを実施しています。こちらにも投稿しましたが発表は明年の2月とのこと。そこで「総選挙」の対象となっている作品の中で、昨年から過去にさかのぼる形で私的に面白いと思ったものをいくつか挙げてみますと：

「前向きで」 駐車場にも 励まされ  
 久しぶり～ 名が出ないまま じゃあまたね～  
 クレームも 社員じゃわからん パート出せ  
 「空気読め！」 それより部下の 気持ち読め！  
 「課長いる？」 返ったこたえは 「いません」  
 デジカメの エサはなんだと 孫に聞く  
 まだ寝てる 帰ってみれば もう寝てる



どの作品もユーモアとペースがあります。サラリーマンの本音が出ていて、「よくぞ上手に詠んでくれた！」と喝さいをおくっている部下がいるかもしれません。下から2番目はデジカメが流行り出したころ、一番下は住宅事情が厳しくなり、はるか郊外の団地からの通勤が普通になってきた時代の作品です。

もう一つ、どこで見たのか思い出せないのですが、やはり傑作だと思ったのが：

「彼いるか？」 上司に聞かれ 「ハイいます」

今は若い男女ともに結婚難の時代。彼らのためにも上司や周囲の関係者は、一肌脱いでとお願いしたい(小生は何組もの力になってきました)。他人の作品の紹介ばかりでしたが、自作で「これならば！」とご紹介できるのは次の一句です。電車を利用する方は誰でも経験があると思うのです。



空き待てど 降りるは隣り また隣り